

4月2日(水)

## 文

## 化

ご当地の祭りや風物詩、景勝地などを直径1メートルの円形の鋼鉄にデザインし、時にカラフルに着色したデザインマンホール。路上の一隅に地元の誇りがあふれる。狭い日本だが、各地には様々な個性が生きてきた意匠をまもって残っているのだ。

◎○○◎

地球2周分、3千種

私は妻、和子との二人三脚で地元の大府豊中市を拠点に、北は北海道阿寒町(現釧路市)から南は沖縄県の波照間島(竹富町)まで、地球2



周分約8万キロを車やフェリーなどに乗って踏破。約3000種をカメラに収めてきた。始まりは妻の散歩だった。友人らと近隣を歩き回ると、「面白いマンホールがある」と写真を撮り始めたのが10年ほど前。旅行のついでにマンホールを巡るようになり、次第に行動範囲が広がった。夫婦とも会社を定年退職した後は、1週間から10日の日程で、各地に足を延ばした。路面

にレンズを向け、シャッターを押し続けた。重宝したのが旧型のカメラと刷毛。個性的なマンホールはいわゆる「平成の大合併」以前、市町村ごとにデザインされたものが多い。このため、古いマンホールがある合併前の旧市役所・役場の場所をカーナビにセットし、取材に向かった。車は買い替えたがカーナビは古いままだ。

「平成の大合併」以前、市町村ごとにデザインされたものが多い。このため、古いマンホールがある合併前の旧市役所・役場の場所をカーナビにセットし、取材に向かった。車は買い替えたがカーナビは古いままだ。

の3代目になる。一般の人には刷毛で鉄板を清め、体を伸ばしたり、かがんだりして撮影にいいしむ私たちは奇妙に映るらしい。けんそうな視線を向けられ、「工事関係の人ですか」と声をかけられることもしばしば。愛媛県新居浜市では、目当てのマンホールがあった駅周辺が再開発で掘り返されていてガックリ。翌日、

が同心円状に描かれたのが始まりとされる。各自治体が地域おこしや、観光客の目を惹きつけようとして、独創的な数々のデザインが生まれた。下水道事業への理解を深めてもらう役目も担ったのだらう。しかし、「平成の大合併」後は旧市町村のイメージの最大公約数的な平凡なモチーフになり、個性を失いつつあると感じる。

例えば、熊本県の球磨川沿いの上村、免田町など5町村が合併したあざざり町。合併前のマンホールは花のリユウキンカや鳥のセキレイなどを描いた独創的なデザインだったが、合併後は川の流れる様子や抽象的なイメージになってしまった。遊歩道などレンガ風に舗装された路面では、舗装に溶け込むようカムフラージュされた例も見受けられる。競うように新しいデザインが続々生まれた時期は過ぎたのかもしれない。

十数年かけて集めた写真とパソコンに保存するだけではもったいない。4年ほど前、「棚田100選」「名水100選」などに倣い、整理分類しようと考えた。単純に列挙しただけでは興がなない。まずデザイン性やメッセージ性に富んだ100枚を選出。「漫画」「参詣」「戦い」などのカテ

グリーを設け、関連しそうなものを当てはめていった。例えば「漫画」。鳥取県大栄町(現北栄町)の「名探偵コナン」を筆頭に、宮城県石巻市の「がんばれ! ロボコン」、高知県香北町(現香美市)の「アンパンマン」、鳥取県境港市の「ゲゲゲの鬼太郎」で構成した。いずれも作者ゆかりの地だ。「戦い」は平家物語で描かれた屋島の戦いでの那須与一の話(高松市)、倶利伽羅峠の戦いで用いられた火牛の計(富山県小矢部市)など。さらに関ヶ原の合戦での島津義弘の武勇をたたえた鹿児島県伊集院町(現日置市)のものも加えた。海に囲まれた日本列島らしく魚は3分類。海関連では「漁」「くじら」「帆船」「かもめ」「三太松原」といったカテゴリーも設けた。

◎○○◎  
写真紀行を出版  
デザインマンホールには土地土地の花が咲き、海が広がり、山がそびえる。祭りや故事を通じて、歴史やふるさとへの熱い思いも伝わる。多彩な自然環境に育まれた繊細な生活感覚が反映されている気がする。

## ご当地マンホール探訪

◇個性豊かなデザイン・色に魅了、妻とカメラ片手に◇

池上 修

刷毛はマンホールの溝にたまったゴミやホコリ、雨水をかき出すための必需品。今使っている

幹線道路を走行中、歩道で偶然発見し、2人でガッツポーズとなった。

那覇市が始まり? デザインマンホールは1977年、那覇市でマンホールにたくさんある



妻の和子と筆者

1977年、那覇市でマンホールにたくさんある

デザインマンホールは1977年、那覇市でマンホールにたくさんある

デザインマンホールは1977年、那覇市でマンホールにたくさんある